



洋学文庫
文庫8
C 368





家の財本さいほんともふつきのものにいて人
 た家のもの誰たれの學まなをいして可べあらんや
 夫の道路どうろに迷まよひ飢餓きげつに陥おちり家を破やぶり
 身を喪うしなの徒との如ごときくひものまに畢竟ひつじやう不學ふがくより
 てかくあやまり過とちを由よしを失うせしまりひ從來じゆらい學校がく
 の設たりりてより年としを歴かるまと久ひさしと
 いふとあるま成なり其道そのみちを得えるまはまりまりて

藤原氏書
 藤原氏書

人其方向ちかへを誤まちり學問がくもんハ士人しにん以上の事
 として農工商及まじひ婦女子ふむすこに至いたつて之
 を度外とごまよたき學問がくもんの何物なにものたるヲ辨わべ
 以も又士人以上しにんじょうの稀まじに學がくハもの動うごて
 されハ國家こくかの為ためにかと唱なへ身みを立たる
 の基もとたふを知しりて或あるハ詞章しじやう記誦きじゆの
 未まに趨まり空理くうり虚談きょたんの途みちに陷おちり其論そのろん高たか

尚たゞに似にたりといハとも之これを身みに行なし
 事ことに施ほる能あたらざるもの少すくなり是
 等はは古ふる沿襲えんじゆの習弊しゆへいに依よりて文明ぶんめい普及ふくは
 うに以も才藝さいぎの長ながせにかずく實じつは破産ぱさん喪そう
 家の徒と多おほき由よしを忘わすれん是故ゆゑに人ひとた
 ものハ學がくハせんハ所ところへううに以も之これを
 學がくハ其宜そのあたりなく其音そのねを誤まちる人ひとあらは

之に依て令般文部省に於て學制を定
 め追々教則をも改正し布告し及ふ一
 きにのつき自今以後一般の人民華士族及農工商及
 子婦女必を邑に不學の戸ある家不學
 の人おかりし是ん事を期す人の父兄
 た子との宜しく其意を體認し其愛育
 の情を厚くし其子弟を養ひて必を學ば

入精細申諭文部省規則ニ隨ヒ學問普及
 及致候様方法、設可施行事

明治五年壬申七月

太政官

第十二號

大 清 宣 統 年 間

令般被 仰出候旨 有之教育之儀
 自令尚又厚 御手入可有之候處從來
 府縣 於 取設候學校 途 又加
 之其內不都合之儀 不少依 一旦悉
 令廢正令般定 學制 循
 其主意 及 更 學校設立可致候事

大 清 宣 統 年 間
 宣 統 年 間

但外國教師雇入有之場所、當省ヨ
リ官員ヲ派出シ地方官協議之上可
及蒙分候條夫迄之處生徒教授向等
不都合無之様可取計尤當省出張ヲ
不待學制之目的ニ依リ成丈相運候
様可致事

明治七年

文部省

學制

大中小學區ノ事

第一章 全國ノ學政ハ之ヲ文部一省ニ統メ

第二章 全國ヲ大分シテ七大學區トス之ヲ大學

區ト稱シ每區大學校一所ヲ置メ

第三章 大學區ノ分別左ノ如シ

第一大學區

東京府

神奈川縣

埼玉縣

熊谷縣

千葉縣

足柄縣

新治縣

茨城縣

朽木縣

山梨縣

計一府一縣東京府ヲ以テ大學本部

ス

第二大區

愛知縣

濱松縣

度會縣

岐阜縣

三重縣

静岡縣

山梨縣

石川縣

石川縣

兜摩縣

殺賀縣

今市縣

殺賀縣

計九縣愛知縣ヲ以テ大學本部トス

第三大區

大坂府

兵庫縣

堺縣

飾磨縣

高知縣

滋賀縣

京都府

奈良縣

和歌山縣

豐岡縣

名東縣

岡山縣

計二府十

縣大坂府

以テ大學本部ト

第四大區

廣島縣

島根縣

小田縣

愛媛縣

濱田縣

鳥取縣

比條縣

新田縣

山口縣

計八縣廣島縣、以テ大學本部トス

第五大區

長崎縣

佐賀縣

宮崎縣

白川縣

鹿兒島縣

小倉縣

大分縣

福岡縣

三潯縣

計九縣長崎縣ヲ以テ大學本部トス

第六大區

新潟縣

置賜縣

酒田縣

若松縣

長野縣

相川縣

新川縣

中津縣

新潟縣

第七大區

大學本部トス

宮城縣

福島縣

磐前縣

水澤縣

岩手縣

秋田縣

山形縣

青森縣

計八縣官城縣、以テ大學本部トス

總計三府六十縣

第四章 北海道ハ當分第七大區ヨリ之ヲ與リス

他日別ニ區分スヘシ

第五章 一大學區ヲ分テ三十二中區トシ之ヲ

中學區ト稱ス區毎ニ中學校一所ヲ置テ全國

七大區ニテ其數二百五十六所トス人口大約十三万人及テ中學區ノ目的トス

第六章 中學區ヲ分テ二百十小區トシ之ヲ

小學區ト稱ス區毎ニ小學校一所ヲ置テ一大

區ニテ其數六千七百二十所全國ニテ五万三千七百六十所トス人口大約六百人ヲ以テ小學區ノ目的トス

但土地ノ情態ニ因リ數小學區中一小學ノ興ニ之ヲ保護兼用スルノ類其便宜ニ任ス之ヲ附區ト稱ス數區ハ合カラス

第七章 中學區以下ノ區分ハ地方官其土地ノ

廣狹人口ノ疎密ヲ計リ便宜ヲ以テ郡區村市

等ニヨリ之ヲ區分スヘシ

第八章 一中區内學區取締十名乃至十二三名

ヲ置キ一名ニ小學區二十或ハ三十ヲ分テ持

タシムヘシ此學區取締ハ專ラ區内人民ヲ勸

誘シテ務テ學ニ就カシメ且學校ヲ設立シ或

ハ學校ヲ保護スヘキノ事或ハ其費用ノ使用
ヲ計ル等一切其受持所ノ小學區内ノ學務ニ
關スル事ヲ擔任シ又一中區内ニ關スル事ハ
互ニ相論議シ專ラ便宜ヲ計リ區内ノ學事ヲ
進歩ヒシメシムルヲ務ムヘシ

第九章 學區取締ハ地方官ニ於テ之ヲ命スヘ

但其人名ハ本省督學局ニ届クヘシ督學局
ハ第十
五章ニ
見ユ

第十章 學區取締ハ其土地ノ居民名望アル者

ヲ撰ムヘシ
但戸長里正等ヲシテ兼子シムルモ妨ケナ

其給料幾分カ増給スヘキ等
ハ地方ノ便宜ニヨルヘシ

第十一章 學區取締給料ハ當分其土地ノ情態

ニヨリテ之ヲ定ムヘシ此給料ハ土地ヨリ出
スヘキモノトス然レ事實止テ得ナルモノハ

姑ク官ヨリ其幾分ヲ助給スヘシ給額ハ一月凡金五圓ニテ
近テ與フル地方ノ便宜ニヨルヘシ

第十二章 一般人民華士
工高及
婦卒農
女ノ學ニ就クモ

ノハ之ヲ學區取締ニ届クヘシ若シ子弟六歳
 以上ニ至リテ學ニ就カシメサルモノアラハ
 委シク其由ヲ學區取締ニ届ケシムヘシ私塾
家塾
 入リ及ヒ已ムヲ得サル事アリテ師ヲ其家
 招キ稽古セシムルモ皆就學ト云フヘシ

第十三章 學區取締ハ毎年二月区内人民子弟
 六歳以上ナルモノ、前年學ニ就モノ幾人學
 ニ就カサルモノ幾人ト第一號ノ式ノ如ク表
 ヲ作り之ヲ地方官ニ出シ地方官之ヲ集メテ
 四月中督學局ニ出スヘシ

第十四章 官立私立ノ學校及私塾家塾ノ論
 其學校限リ定ムル所ノ規則及生徒ノ増減
 進否等ヲ書記レ毎年四月之ヲ督學局ニ出
 シ但生徒増減進否ハ第五號表式ノ如クスヘシ此表
ハ地

方官ニテ學區取締ヨリ出スモノヲ集メテ之ヲ作り督學局ニ出スモノトス

但官立大中學校ニテハ其書記ヲ三紙トシ
 一紙ハ督學ニ出シ一紙ハ地方官ニ渡シ一
 紙ハ學區取締ニ下タスヲ法トス

官立ノ小學及ヒ私學私塾家塾等ニテモ三

紙ニ書記レ之ヲ學區取締ニ出シ學區取締
ヨリ地方官ニ出シ地方官之ヲ集メテ四月
中督學局ニ出スヘシ其一紙ハ學區取締
留置キ一紙ハ地方官ニ留ムルヲ法ニス

第十五章 大學本部毎ニ督學局一所ヲ設ケ督
學ヲ置キ附屬官員數名之ニ充テ本省ノ意向
ヲ奉テ地方官ニ協議シ大區中小諸學校ヲ督
レ及教則ヲ得失生徒ヲ進退等ヲ檢査シ論議

改正

但大事ハ決テ本省ニ取リ小事ハ直ニ之ヲ
蒙テシ毎年二月八月本省ニ開申スヘシ
第十六章 督學局ニ於テハ毎年學區取締ヨリ
出入所ノ表并ニ諸學校ヨリ出入所ノ書記
ヲ以テ學校及生徒進歩ノ狀態并ニ六歳以上
ノ男女學ニ就クモノ幾人就カサルモノ幾人
等ノ表ヲ製シ本省ニ送リ本省ニ之ヲ上梓
公告スヘシ

第十七章 督學局ハ總テ地方官ト協議スヘ
トイヘ直ニ學區取締ヲ呼出ニ本局ノ意向
ヲ諭示スルヲ得

第十八章 地方官ハ總テ督學局ト協議スヘ
但督學局完全ヲヲサルノ間ハ總テ本省
申出ヲヘレ

第十九章 地方官ニ於テハ學務專任ノ吏員一
名ヲ置キ部内ノ學事ヲ擔任セシムヘ其
人名ハ兼テ本省并ニ督學局ニ届ケ置クヘレ

○學校ノ事

第二十章 學校ハ三等ニ區別ス大學中學小學
ナリ學校教則書
別冊

○小學

第二十一章 小學校ハ教育ノ初級ニシテ人民
一般必ス學ハスニハアムヘカヲサシモト
ス之ヲ區分スレハ左ノ數種ニ別ツヘル然レ
均ク之ヲ小學ト稱ス即チ尋常小學女犯小學村落小學
貧人小學小學私塾幼稚小學ナリ其外廢人學校アルニ

第二十二章 幼稚小學、男女ノ子弟六歳迄ノ

モ、小學ニ入ル前、端緒ヲ教ヘナリ

第二十三章 小學私塾ハ小學教科ノ免狀アル

モノ私宅ニ於テ教フル稱スヘシ

第二十四章 貧人小學ハ貧人子弟ノ自活ニ難

キモノヲ入學セシメシニ為ニ設ク其費用或ハ富

者ノ寄進金等ヲ以テス是專ラ仁惠ノ心ヨリ組

立ルモノナリ仍テ仁惠學校トモ稱スヘシ

第二十五章 村落小學ハ僻遠ノ村落農民ノ

アリテ教化素ヨリ開ケサルノ地ニ於テ其教

則テ少シク省略シテ教レモノナリ或ハ年已

ニ成長スルモノモ其生業ノ暇来リテ學ハレ

ハ是等ハ多ク夜學校アルヘシ

第二十六章 女兒小學ハ尋常小學教科ノ外ニ

女子ノ手藝ヲ教フ

第二十七章 尋常小學ヲ分テ上下二等トス此

二等ハ男女共必ス卒業スヘキモノトス

別則

下等小學教科

一 綴字

讀并盤上習字

二 習字

字形ノ主トス

三 單語

讀

四 會話

讀

五 讀本

解意

六 脩身

解意

七 國體

解意

八 書讀

解意并盤上習字

九 文法

解意

十 算術

九九 數位加減乘除但洋法ヲ用フ

十一 養生法

講義

十二 地學大意

十三 窮理學大意

十四 體操

十五 唱歌

當今之ヲ欠ル

六 上等小學ノ教科ハ下等小學教科ノ上ニ左

ノ條件ヲ加ス

一 史學大意

二 幾何學大意

- 三 算畫大意
 - 四 博物學大意
 - 五 化學大意
 - 六 生理學大意
- 其地ノ形情ニ因テハ學科ヲ擴張スル為メ
左ノ四科ノ斟酌レテ教ルヲアルヘレ
- 一 外國語學ノ一二
 - 二 記簿法
 - 三 圖書
 - 四 政體大意

下等小學ハ六歳ヨリ九歳マテ上等小學ハ
十歳ヨリ十三歳マテ卒業セシムルノ法
則ニテ但事情ニヨリ一概ニ行ハレザル
ハ斟酌スルニ妨ヲシシラス

第二十八章 右ノ教科順序ヲ踏マシメテ小學
ノ科ヲ授ムルノ之ヲ變則小學ト云フ
但私宅ニ於テ之ヲ教ムルハ之ヲ家塾
トシテ

○中學

第二十九章 中學、小學、生徒ニ普通

、學科ヲ教ヘ所ナリ分、上下二等トス二等

、外工業學校商業學校通稱學校農業學校諸

民學校、

、下等中學教科

一 國語學

二 算術

三 習字

四 地理學

五 史學

六 外國語學

七 窮理學

八 圖畫

九 古言學

十 幾何學

十一 代數學

十二 記簿法

十三 博物學

十四 化學

十五 修身學

- 十六 生理學
- 十七 國體學
- 十八 政體大意
- 十九 國勢學大意
- 二十 奏樂當分缺
- 一 上等中學教科
- 一 國語學
- 二 習字
- 三 外國語學
- 四 窮理學
- 五 罪畫
- 六 古言學

- 七 幾何學
- 八 代數學
- 九 記簿法
- 十 算術
- 十一 備身學
- 十二 測量學
- 十三 經濟學
- 十四 重學大意
- 十五 動物學
- 十六 植物學
- 十七 地質學

十八 礦山學

十九 性理學大意

二十 星學大意

下等中學ハ十四歳ヨリ十六歳マテ上等中
學ハ十七歳ヨリ十九歳マテ卒業セシム
ルヲ法則トス

第三十章 當今中學ノ書器未タ備テ此際在
來ノ書ニヨリテ之ヲ教ルモ或ハ學業ノ順
序ヲ踏マヌシテ洋語ヲ教ヘ又ハ醫術ヲ教
モノ通シテ變則中學ト稱スヘシ
但私宅ニ於テ教ヘモノハ之ヲ家塾トス

第三十一章 常令外國人ヲ以テ教師トス學

校ニ於テ外大學教科ニ非リハ以下ハ通シテ
之ヲ中學ト稱ス

第三十二章 私宅ニ於テ中學ノ教科ヲ教ル

ルノ教師ナルハキ證書ヲ得ルモノハ中學私
塾ト稱スハレ其免狀ヲキモノハ之ヲ家塾ト
ス

第三十三章 諸民學校ハ男子十八歳女子十五

歳以上ノモノニ生業ノ間學業ヲ授テ又十二

歳ヨリ十七歳。テノ者ノ生業ヲ導カシカ為
メ專ラ其業ヲ授ケ故ニ多ク夜分ノ稽古アラ
シムヘシ

第三十四章 農業學校ハ小學ヲ經テ農業ヲ治
メントスルモノ、為一設ク

第三十五章 通辨學校ハ專ラ通辨ノ事ヲキト
ス戒ハ商人等交易ノ為メ專ラ通辨ノモヲ志
スモ、此校ハ入ル者ハ其ノ業ヲ修メテ
但外國教師アリ、且語學同ノヲ教

者ハ之ノ通辨學校ト稱ス

第三十六章 商業學校ハ商用ニ附ルヲ教メ
海内繁盛ノ地ニ就テ數所ヲ設ク

第三十七章 工業學校ハ諸工術ノ一ヲ教メ
○大學

第三十八章 大學ハ高尚ノ諸學ヲ教ム專門科
ノ學校ナリ其學科大畧左ノ如シ

- 理學
- 文學
- 法學
- 醫學

第三十九章

小學校ノ外師範學校ヲ、此校ニ
アソテハ小學ニ教ル所ノ教則及其教授ノ方
法ヲ教授ス當令ニ在リテ極、重要急ナルモ
トス此校成就スルニ非ヤレハ小學ト雖モ
完備ナラズ故ニ急ニ此校ヲ開キ其成
就ノ上小學教師ヲ人ヲ四方ニ派出セシ
メ期ス

第四十章

小學校教員ハ男女ヲ論ビテ

歳以テニ、師範學校卒業免狀或ハ中學免
狀ヲ得シモノニ非カレハ其任ニ當ルヲ許
サズ

第四十一章

中學校教員ハ年齢二十五歳以上
ニシテ大學免狀ヲ得レヒ、非ヤレハ其任
ニ當ルヲ許サズ

第四十二章

大學校教員ハ學士ノ稱ヲ得
ノニ非ヤレハ許サズ

以上三章ハ其目的ヲ示ス數年ノ後ヲ待

之ヲ行フ、後章ハ現今ノ位ニ應、之
ヲ許スセトス

第四十三章

私學私塾及家塾ヲ開キ、
者ハ其屬籍住所事歴及學校ノ位置規則等
詳記、學區申請、出、地方官ヲ經、
局、出、
但家塾ハ地方官ニテ之ヲ聞届毎年二月
八月取集メテ督字局ニ出スヲ法トス

第四十四章

私學私塾教員ガ、
違シ或ハ不行狀、
之ヲ譴責、又

第四十五章

師範學校ニ於テ教授ヲ受テ、
教員、他ノ職務ヲ兼テ及他、
ハ、法トス

第四十六章

小學教員ハ男女ノ差別ヲ其才
ニヨリ之ヲ用フヘシ

第四十七章

教員生徒ノ教授スルノ功他ニ秀
越スルモノ、
督學局地方官ト協議シ之ヲ本省ニ
褒賞ヲ與フ

生徒及試業ノ事

第四十八章 生徒ノ諸學科ニ於テ必ス其等級
一級毎ニ必ス試
驗ヲ一級卒業スル者ハ試驗狀ヲ渡シ試驗
狀ヲ得ルモハ非ニ進級スルヲ得

第四十九章 生徒學等ヲ終ル時ハ大試驗

小學ニ中學ニ移ル中學
ヨリ大學ニ進ム等ノ類

但大試驗ノ時ハ學事關係ノ人自ラ勿論其

請求ニヨリテ親族或ハ他官員トシテ臨席スル

第五十章 私立學塾生徒ニ其義前二章ニ同シ

第五十一章 試驗ノ時生徒優等ノモノニハ優

賞ヲ與フルヲアルヘシ

第五十二章 生徒ノ内學業銳敏後來大成スル

モノ目的アレバ學資ヲ納ルル能ハス及其衣

食ヲ給スルヲ能ハサルモノニハ費用ヲ給貸ス

ルニシルヘシ但成業ノ後年割ヲ以テ之ヲ償

フトモ或ハ官ニ奉事シテ使役ヲ受ヌルニ命

隨ハキノ證書ヲ出サレテ年限ヲ定メ其費用ヲ貸與ス是ヲ三等ニ分テ年割ニ以テ償シ業ヲ離テ五年ノ後ヨリスヘシ病死等ヲハ之ヲ棄テ公費ヲ受ルニ二年ノ者

同三年ノ者

同五年ノ者

此生徒七六區ニ平均シテ全國千五百人ト限ル故ニ缺員アルニ非ヤレハ増加ヘシ得ス

二年公費ヲ受クル者ハ官ニ使役スルヲ四

年償還スルハ六年ヲ以テス

三年ノ者ハ使役七年償還九年

五年ノ者ハ使役十年償還十五年

此生徒一人ノ費用一年百二十兩一切官ニ

於テ之ヲ賄フ

別ニ其學校定ル所ノ下等受業料ヲ借ルモノトス故ニ之ヲ加ヘテ共ニ償還スルノ金高トス

但使役ノ間ハ相當ノ歳俸ヲ給スルハ勿論

タルヘシ若其役ヲ奉セサルモノハ前ノ官

費ヲ償フヘシ

第五十三章 私學私塾生徒モ其義前章ニ同レ

第五十四章 生徒ニ費用ヲ給貸スルハ其父兄及本人ヨリ證書ヲ出サシメ且其修業ニシテ學科ノ證書ヲ出サシメ檢査法及證書式等ハ別冊アリ

第五十五章 生徒ニ費用ヲ給貸スルハ其學業ヲ授ケテ教師ヨリ其生徒學業就敏後來大成ルハキノ目的アルノ状并ニ其曾ヲ進級セシ慶ノ學科ノ證書ヲ具ヘ幾年ノ公費ヲ給スハキ云々等教師見込ノ詳記セ之ヲ督學局

ニ連スルハ學長ノ學校ニ在リハ學長督學局之ヲ地方官ニ議シ其貧困ノ状ヲ詳ニシ而シテ後其學業ヲ檢査シ本省ニ申達スレ

但此生徒ハ公私大中小學ニ拘ハラズ且檢査ハ地方官學務掛立會ヲ以テ法トスレ

第五十六章 師範學校ノ生徒ハ第五十二章定ムル所ノ生徒負數ノ内ヨリ之ヲ採ルヘレ但當今設クル所ノ師範學校ノ生徒ハ此限

第五十七章 第五十二章 = 定ムル所ノ生徒ノ

外ニ公撰生ヲ設ク此ノ公撰生ハ他日之ヲ論定ス

海外留學生規則ノ事

第五十八章 海外留學生徒ハ都ヲ本省ニ於テ

之ヲ管轄ス

第五十九章 留學免狀ハ本省ニ於テ渡スル

但渡海免狀ハ外務省ヨリ受取リ相渡ス

第六十章 留學中諸般ノ事件ハ公使ヘ依頼

其指令一後ノ事且生徒ノ中人換ハ上生

徒總代ノ者一人或ハ幾人公使ヨリ申付ヘ

第六十一章 留學ニ官撰ト私願トノ別アリ官

私共都テ本省ニ於テ之ヲ達スヘ

第六十二章 官撰留學生ヲ換ハ二等

リ一ヲ初等留學生トシ一ヲ上等留學生トス

第六十三章 初等留學生ハ中學卒業ノモノヨ

リ換ハ上等留學生ハ大學ノ學科卒業ノモノ

ヨリ撰ハ

第六十四章

初等留學生ハ稟性誠實達敏ニシ

テ十九歳以上二十五歳迄ノ者小學初級ヨリ

順次進級シ中學ノ課程ヲ卒業セシ證書アル

モノヲ公ニ撰舉スヘシ

但國內大學校ニ入リテ研業セシテ願ス

者ハ撰ニ當ル人トイハル其情願ニ任スヘ

第六十五章 初等留學生ヲ撰ニハ其學業ヲ

授ケレ教師、生徒中學卒業試験ノ證書ヲ

具テ其撰舉見込ヲ詳記シ之ヲ督學局ニ達ス

督學局之ヲ検査シ甲第ハモテ即チ其試験

ノ始末ヲ詳記シ本省ニ出レ其允可ヲ得レ

法トス

第六十六章 但検査ノ時本省官員ハ勿論其請求ニヨ

リテハ親族或ハ他官員ヲトモ臨席スル

トアルヘシ

第六十六章 官撰留學生ニ第六十四章第六十

五章ニ定ル所ノ規則ニ隨ヒ其進級ノ順序確
實ニシテ後來成業ノ目的アルニ於テハ生徒
公私ノ差別アルナシ

第六十七章 官換留學生ノ學科ハ官ヨリ命ス
ヘント雖モ當人ノ望ミト其教師ノ見込トニ
ヨルテアルハシ故ニ當人ノ望ミ某ノ科ヲ修
業スルニアルハ教師ノ思考果シテ適當スル
ヤ否ヲ詳記シ試驗ノ節教師ヨリ之ヲ出スラ
法トス

但此記載ハ兩紙ノ出入ハ一紙ノ之ヲ本
省~~留~~留~~一~~紙~~ハ~~之~~ハ~~公使館ニ遺~~ハ~~ス

第六十八章 官換留學生外國ニ着~~キ~~某地
ニ於テ~~ハ~~某ノ學校~~ニ~~入~~リ~~某ノ人ニ從~~テ~~某科
ノ學~~ヲ~~事~~ヲ~~詳記シ本省ニ届クヘシ

但七八个月ヲ越テ其報~~ヲ~~時~~ハ~~即公使
ニ掛合ヒ呼戻スヘシ

第六十九章 官換留學生ハ外國ニアル~~ハ~~學科
進級ノ時ハ必~~ズ~~本省ニ届クヘシ

第七十章 官撰留學生歸朝ノ時、其外國ニ

アリテ研業セシ所ノ狀ヲ具シ本省へ出入、
シ本省ニ於テ之ヲ試験スルヲ法トス

但外國ニ於テ大學卒業ノ免狀アルモノハ
試験ニ及ハス

第七十一章 大學校ニ於テ專門ノ學科ヲ卒業

セシモノハ官撰ヲ以テ順次ハ順次トシ、
ハ大學科卒業

モノ幾人アルニ教師試験ヲナシ其内甲第

ハ當テハ而テ前ノ如ク撰擇スルハ半年若ク海外

ニ派出シ其業ヲシテ一層精密鍊熟セシム

第七十二章 初等留學生ハ通常年限滿五年ニ

過クハカラズ

第七十三章 上等留學生ハ通常年限滿三年ト

スヘシ

第七十四章 初等留學生ハ定員百五十人ト定

ム

第七十五章 上等留學生ハ定員ナシトイヘシ

三十一

多キモ三十人ニ過クハカラス
第七十六章 大學設置ノ日ニ當ツテ中等留學
生ヲ設クルハ其時ニヨルヘレ
第七十七章 初等留學生學資
初二年 九百ドルヲル
但止ムヲ得ス都下ニ滞在スヘキモノハ千
ドルヲルヲ給スヘレ
後三年 千ドルヲル
但此返途中旅費ハ定限ノ外ナリ支度料ハ

此程前學資一ヶ月分ニ當ル高ク賜フ
第七十八章 上等留學生學資
千五百ドルヲルヲ千八百ドルニ迄
但此返旅費支度料前章ニ同レ
第七十九章 私願留學生ハ官費ニ拘ラストイ
ハル學科上ニ於テハ官撰留學生ニ准スヘレ
唯精密ノ檢査ヲ受ケサレハ
第八十章 留學私願ノモノハ其教師ヨリ見込
ヲ詳記スルヲ第六十五章ノ如クレ之ヲ本省

出スヘシ本省ニ於テ其見込書ヲ以テ検査
上可否スヘシ

但研業ニシテ所ノ學科規則ニ入ラザルモノ
留學ノ名義ヲ免サス

第八十一章 私願留學ハ年限其人ノ望ニ任
スヘシ

但一今年大概六七百トナラシ以上ヲ費ス
ニ非ヤレハ留學為シ難キヲ以テ其負數ヲ
出スル能ハクハヒノハ之ヲ許サズ

第八十二章 留學中居所轉換ハ館私共止ムヲ
得ルル事故ノルニ非リハ容易ニ許サズ必
公使ノ指揮ヲ待ヘシ

第八十三章 留學中疾病事故等アルトキハ其
費證書ヲ以テ別ニ公使館ヨリ受取歸朝ノ
上一時ニ償還スヘシ若シ一時償還スルニ能
ハル者ハ第五十二章ニ定ムル所ノ償還使
後ノ年限ヲ増スヘシ

但私費留學ノ者ハ此地ニ於テ之ヲ本省へ
上納スヘシ

第八十四章 公費ノ生徒ハ上程ノ節學費一年
分ヲ渡シ翌年ヨリハ前半年分米國ハ前年九
月歐洲ハ前年七月後半米國ハ其年ノ三

月歐洲、其年ノ正月本省ヨリ公使館へ廻送
、私費、モ、モ之ニ同シ故ニ私費、分
前以テ本省ニ納ムヘシ

第八十五章 官換留學生ハ歸朝ノ上必官

奉職スルカ又ハ官費ヲ償還スルカ共ニ命
隨フヘキ、證書ヲ出ス、一等第五十二章ニ同

但奉職キ一年償還十五年ノ限トス

第八十六章 生徒留學中言行ヲ慎ム學業ヲ勉

國體ヲ汚スルハヤク日夜心ヲ用ヘシ若

懶惰成ハ不行狀ニシテ前途ヲ見込メテキモ

ハ首ニシテ呼戻スヘシ

第八十七章 其地ノ公使ニ於テ常ニ生徒ニ

監視シ毎年生徒ノ勤惰進退等明細表ヲ撰

之ヲ本省ヘ送り即本省ニ於テ上梓公告シ

シ

第八十八章 時ニ因テ留學ノ定規ヲ變メヘキ

件々ハ本省ト公使ト絶ヘテ往復商量シ

之ヲ改ムヘシ

○學費ノ事

第八十九章 學事ニ關係スル官金ハ定額ニシ
リ本省ニ於テ一切之ヲ管知スル
但教育ノ設ハ人々自ラ其身ヲ立ルノ基
ニテ以テ其費用ノ如キ悉ク政府ノ正租
仰クヘカラサル論ヲ待タズ且廣ク天下
人々ヲシテ必ス學ニ就カシメシテ期
レハ政府正租ノ悉ク給スル所ニテラス然

ノ力ニテ人民ノ智ヲ開ク一極
ヲ急務ナレハ一切ノ學事ヲ以テ悉ク民費

トニ委スルハ時勢未タ然ル可カラサルモノ
アリ是ニ因テ官カヲ計リ之ヲ助ケサルヲ
得ストイヘル官ノ助ケルヲ以テ從來

弊ニ依著ス可ラス 御布告

第九十章 凡人民ヲシテ學ニ就カシムル勉

テ廣普ナルヲ欲ス故ニ官金ヲ以テ學事ヲ助
クルモノ、如キハ必民ノ及ハサルモノヲ助

クルニアリ決シテ偏重ノ事アルヘカラス
 学ハレノラ農工商ヲ学ハレヌ或ハ富者ニ
 衣食ヲ給レテ学ハレメ貧ナル者学フヲ得
 ス或ハ一人ニ數百金ヲ費ヤレテ学ハレメ衆
 人学フヲ得サル類ノ如キ有ルヘカラス
 第九十一章 生徒衣食ノ費用或ハ官金ヲ以テ
 之ニ給シ以テ當然トス是從來ノ弊ナリ公私
 學校ノ生徒衣食ノ用ヲ供スル一切之ヲ廢
 止スヘシ
 第九十二章 當今學事ヲ助ケル官金ヲ以テ
 スルモ左ノ目的ノ外ノ出カレハス

外國教師ノ俸給并ニ外國人ニ係ル費用
 才藝ヲ進メ即外國教師ニ外國藝術ノ實用ヲ採
 此俸給ハ生徒辨レ得ル駐
 一 大學校ノ營繕及大學校ニ備スル書籍器
 械學校營繕ノ如キハ完全ナル學業ヲ妨ク
 甚多トシタト究理化學其他百工技術其費用
 少シトシテ教授スル此等ノ費生徒悉ク
 辨レ得ル能ハス仍テ官ヨリ費之ヲ助ケ
 一 中學校ニ於テモ前同
 一 生徒ニ費用ヲ給貸スルノ費見合スルニ章ヲ

及留學生公撰生ノ費用

一 學區ニ助ノル費用 第九十八章 第九十九章 兼百章ニ載スル所ヲ見

合
ヘス

第九十三章 諸學校ニ於テ需ヲ可メノ費用ノ條

件左ノ如ク

- 一 教師ノ歲俸或ハ其居宅ノ屋賃
- 一 學區取締給料
- 一 學校僕役ノ費用
- 一 學校造營及修理ノ費用或ハ人家ヲ借テ學

校ニ於テ時々其借賃

一 學校諸器械教授器械或ハ修費

一 學校學用ノ薪炭油筆紙墨ノ費用

一 試業ノ費用

一 體術器械ノ費用

此數件ノ全費ハ生徒之ヲ辦スルモノナリ

然レモ悉ク生徒ヨリ出サシムルキハ生徒

ノ力及ハスニテ學業之ヲ為シ滞穢スルハ故

ニ官ヨリ之ヲ助ケト雖モ生徒固ニ其分ノ

受業料ヲ納メサル可ラス
第九十四章 大學校ニテハ生徒ノ受業料
一月七圓五十錢ヲ相當トス外ニ六圓四圓
ニ等ヲ設リ相當ノ受業料ヲ納ム能ハサルモ
、為ニス中學校ニテハ一月五圓五十
錢ヲ相當トス外ニ三圓五十錢ニ圓ノ二等ヲ
設ク小學校ニテハ一月五十錢ヲ相當
ト外ニ二十五錢ノ一等ヲ設ク
但相當ノ受業料ヲ納ム能ハサルモ
戸

長里正之ヲ證シ學區取締ヲ經テ其學校ニ
出シ許可ヲ受クヘシ
第九十五章 一家二人ノ子弟ヲ學校ニ入ル者
ハ戸長若クハ里正ノ證ヲ待タスレテ其由ヲ
陳シ下等ノ受業料ヲ納ムヘシ三人以上アル
時ハ二人ノ外受業料ヲ出スニ及ハス
第九十六章 諸學校ニ於テハ第九十四章定
所ノ受業料ヲ以テ便宜ヲ計リ其學校ヲ保護
スルヲ要スヘシ然レモ生徒ノ多少ト學校

高下トニヨツテ其保護スルノ費過不足ヲ
生スヘシコレハ其校ノ情態ニ應シ少シク受
業料ヲ斟酌スルヲ妨ケナシトス

但大學校及外國教師アル中學校ニ於テハ
多分ノ不足ヲ生スルハ言ヲ待タス是官ノ
助力アル所以トイヘ氏各校ノ情態同ラヤ
ルモノアルヲ以テ之ニ應シ亦少シク受業
料ヲ斟酌スルヲアルヘシ中小學校トイハ
ル學區人民ノ貧富等ニヨツテハ少シク斟酌

第九十七章 定ル所ノ受業料ハ當令ニ依リテ

概ニ行ハレサル事アラハ便宜ニ隨ヒ各區
ノ情態及學校ノ事情ニヨリテ暫ク下等
ハク定ムルヲアルヘシ

第九十八章 凡學校ヲ設立セ及之ヲ保護スル
ノ費用ハ中學ハ中學區ニ於テシ小學ハ小學
區ニ於テ其責ヲ受クルヲ法トス故ニ官金ヲ
以テ之ヲ助クルモノハ學區ヲ助クルモノナ

リ但費用ヲ學區ヨリ出サハ正租雜稅
町費村費ノ高ニ割合幾分ヲ出サシムル等其
區ノ情態ニ依ルハ此外富人ノ献金ヲ以テスルカ
或ハ地方ニテ旧來ノ積金等學校ニ費テ妨ケナキ
モ、アル時ハ其金ヲ以テ融通セシムル其幾様ノ
便宜、土地ノ情態ニヨリ處合ス可キ

第九十九章

教育ノ普及ヲ爲スルカ爲

メ府縣ニ委託シ其學區ヲ助ケルノ金額左ノ

如キ

人真男女共一万人ニ付當分ノ内九十圓ニ付人

厘ノ割

金貳十九万三千五百貳十七圓六十壹錢

厘三府六縣

此金高小學校設立ノ基礎已ニ立テ之ヲ渡

スモノトス

此金額ハ明治六年一月ヨリ十二月迄ヲ一

期トシテ之ヲ定ム一期以後ノ増減ハ其時

ノ議決ニヨルベシ

此金ノ遺拂ハ毎年六個月毎ニ詳記シ本省

ヘ届クヘシ本省ニ於テ委シテ上梓公告ス

ヘシ

第百章 前章定ムル所ノ金額ハ務テ民力ノ及

ハサル所ヲ助クルヲ以テ目的トス是故ニ尋
常容易ノ事ニ使用スヘカラス

但此金專ラ小學ヲ廣普シテ學則完整ナラ

シムルカ為ニ用フヘシタトヘハ小學校ヲ

設立セシムルニ為學區積金ノ幾分ヲ助ケ學

區ニ托シ其使用ヲ為スル學區負ニシテ力

足ラサル時其幾分ヲ助ケルヲ止メテ得テ

ル情故アリテ小學校教師ヲ官ヨリ遣ス時其

給俸ヲ助ケルニ負困ニ生徒受業料ヲ出ス

ル能ハサルモノニ其幾分ヲ助ケルヲ完全

ニシテ學校ヲ設ケルニ其營繕等ノ用ヲ一時

融通スルニ器械書籍體術等ヲ備ヘテ為

スル一時融通スルニ學區取締ノ給料幾分ヲ助

ケルニ等

第百一章 額金ノ内五分ヲ引キ別ニ之ヲ備

置テ師範學校ニ於テ教授ヲ受ケシモノ後來

小學ノ教師トナル時ニ其給料ヲ與フルヲ助

ケトスヘシ五分引ハ二十
分一ノ割

但此俸給ハ學區ニ於テ辨スヘキモノトイ
ハ氏理令ノ事情イマク茲ニ至リサレモノ
アムヲ以テ官暫ク之ヲ助クサルニ得ス

第百二章 當今外國教師アル學校ヲ保護スル
ノ費用ハ本省ヨリ直ニ之ヲ管理ス地方官其
情狀ヲ具シテ本省ニ達スヘシ私ニ外國人ヲ
雇入タル學校

第百三章 將來大中學ノ設ル及之ヲ保護スル

ノ費用ニ前ニ同シ

但其教員アルヲ待テ追々設立スヘシ

第百四章 變則中小學費用ハ地方官ノ見込

ヨリ之ヲ處分スヘシ

但其事實ノ具ハ本省ニ届クヘシ

第百五章 凡大中小學校ノ營繕ハ公私共務テ

完全ナルヲ期ス若目前ノ速成ヲ欲シテ事姑

息ニ涉ラハ到底得ル所ナカルヘシ故ニ其力

ヲ計リ今年其一ヲナシ明年其二ヲナシ順次

進歩數年ヲ期シテ全國ノ完整ニ至ルヲ要ス
但生徒學業ノ事ニ至リテハ一日モ忽ニス
ヘカラストイヘル廣ク全局ヲ見テ宜ク本
末順序ヲ誤レヘカラス

第百六章 本省定額金ノ遺拂ハ每年七月中明
細ニ記シ上梓公告スヘシ

第百七章 諸學校ニ於テ每年費ス所ノ金額ハ
學校ノ實情ニヨリテ之ヲ定ムル其公私共
遺拂ノ第百號式ノ如ク明細表ヲ製シ毎年二

月七月督學局ニ出スヘシ

第百八章 器械書籍ハ學校必要ノモノトス
テ用ヒテ完備ヒレメスニハテ可ラス諸學
校所在ノ書器ハ第三號式ノ如ク表ニ製シ每
年二月中督學局ニ出スヘシ

第百九章 凡諸學校ヲ設立スル必ス維持修繕
ノ目的ヲ要ス即第四號式ノ如ク表ニ製シ每
年二月中督學局ニ出スヘシ

區學中番何第		區學中番何	
郡 某		郡 某	
區學小番何第		區學小番何	
合計	町某	村某	村某
女男	女男	女男	女男
合計	町某	村某	村某
女男	女男	女男	女男

總計

女 男

女 男

○學制第一百七章第二號表式
私費入、私立學、書、官、扶助金、私立學、書、過、此、公、學、書、
 但用紙美農、事

公立
 第幾大學區河縣管内
 第幾中學區河郡川村第幾番小學

明治何年 支出納表

生徒	受業料	生徒	學費	書籍拂下	誰寄付金	利子	區內	集金
生徒	受業料	生徒	學費	書籍拂下	誰寄付金	利子	區內	集金
教師給料	教官給料	通辯給料	教授人給料	事務官給料				
納之部	出之部							

官員、之、ラ、ズ、シ、ラ、教授人、ヲ、相、雇、分

官日
扶助金
某積金

小吏門監
給料

役夫給料

教師
教官俸費

營繕入費

書籍入費

器械入費

諸雜費

生徒賄入費

總計

足下

金餘

總計

千支何月何日調算

但川紙美濃紙ノ事

筆墨紙薪炭油等ノ如キ費ハ、部ニ入ル

公學

第幾大學區何縣管内

何郡何村第幾番中學
第幾小學區何郡何村第幾番小學

壬申
何月改

書籍名冊數

器械名負

新規買入

現場調高

修繕

書籍名

代金

器械名

代金

學制

二編

文德容正

學制

小學

中學

大學

師範

職業

文部省正定

學制

二編

學制 追加

海外留學生規則

第一百十章 海外留學生規則ハ第五十八章ヨリ第
八十八章マテ示スカ如クナレヒ或ハ改メ或
ハ補ヒ或ハ精フニ或ハ加フヘイモノナルヲ
以テ明治六年三月五日左ノ四十三條ヲ議定
ス

第一百十一章 文部省ニテ官換留學生ヲ命スル
ハ毎年一月七月兩度タルヘシ

文部省

第一百十二章 第五十九章 留學免狀ノ書式ヲ示
スノ左ノ如シ

官撰留學生免狀書式

第幾號

何府貫屬

華族 士族 平民

苗字名

兄弟 長男 二男

苗字名

片假名ヲ附ク

當何月何歲何月

但イタリヤ文字ヲ
返リテ苗字名ヲ
書ス

理文法醫

學為修業某國留學申付候事

但留學年數滿五年一スル某國到着ノ月ヨリ年

限中^初等留學生學資貸渡候事

年號月日

文部省

印

但料紙鳥ノ子紙ニツ切

私願留學生免狀書式

文部省

第幾號

何府縣貫屬

士族 平民

苗字名

兄弟 長男 二男

苗字名ヲ附ク
苗字名

當何月何歲何月

但イタリテ文字ヲ依リ
テ苗字名ヲ書ス

某學為修業滿五年某國留學免許候事

年號月日

文部省

印

旧料紙鳥ノ子紙四ツ切

第百十三章 公私共留學中恣ニ苗字名ヲ變ス

ベカラス且其書體ハ必ス免狀ニ記載ノ字樣

ヲ用ユベシ書體ヲ略スベカラス若シ止ムヲ

得ス苗字名ヲ改メ或ハ字樣ヲ變ズル時ハ必

ス領事官ノ許可ヲ受クベシ領事官ハ其許可

ヲ出スノ後十日ノ間ニ文部省ヘ報知ノ書ヲ

發スベシ但領事官ヲ欠クモノハ公使

第百十四章 官換留學生ハ留學ヲ命スルノ日

第八十五章ニ示ス所ノ貸費償還云々ノ證書

ヲ出サシム其書式左ノ如シ

何府縣貫屬苗字名華族 士族 平民 兄弟 長男 二男

苗字名

某學為修業某國留學被 仰付五ヶ年間初
等留學生之學資御給貸被下置候段難有奉
存候然ル上ハ勉勵修業可仕ハ勿論御規則
確ク相守滿期歸 朝ノ後ハ右學資償還仕

候共又ハ官役相受候共進退一切公命ニ從
ヒ聊無二念相勤可申候依テ證書差出候也
年號月日

當人 苗字名花押
證人 苗字名印

文部省御中

但料紙美濃紙一枚ヲ用フ

第百十五章 私願留學生ハ留學許可ノ日學資
其外一切ノ費用滯リヲク支給スハキノ證人

連署ノ證書ヲ出サシム其書式左ノ如シ

旅費何百圓 何兩 貫屬 華族
 一、年學資何百圓 平氏
 一、年豫備金何百圓

苗字名 兄弟 長男 二男
 苗字名

其學為修業某國留學願之通御許可相成候
 一、航海旅費并二、當年分學資ハ前書之通
 當人持參可仕候當年分豫備金及三、明年ヨ
 一、學資豫備金又ハ歸朝旅費等ニ至
 迄御省ヨリ御達之都度無遲滯証人引受上

納可仕候依而證書差出候也

前年號月日

常人

苗字名 花押

證人 屬族

苗字名 印

文部省御中

右之通相違無之候也

何

府

知事

某

印

但時ニヨリ東京出張ノ官ニ
 三テ與書スルモ妨ナシトス

但料紙美濃紙一枚ヲ用フ

第百十六章 官換留學生ハ第八十三章ニ掲ケタル
 疾病事故ノ為メ又學科ニ因テ書器費用ノ為
 メ一名毎ニ豫備金三百圓ヲ送ルハ私費ノ
 者モ之ニ同シ故ニ私費ノ者ハ留學許可ノ后
 之ヲ本省ニ納ムベシ但豫備金三百圓ハ一
 ヲリテハ其翌年ハ前ヲ算シテ三
 百圓ニ滿ツルノ金高ヲ送ルベシ

第百十七章 第八十四章公費生徒ノ學資并ニ
 前章ノ公私豫備金ハコレヲ當人ニ渡サズ以
 後其在留國ノ領事館ニ達シ同館ニ於テ規則

ニ因テ渡スモノトス

但其領事館ニ達スベキ證書等ト共ニ之ヲ封
 封シ當人ニ託スベシ

第百十八章 第七十七章第七十八章第八十一
 章ニ記載スル洋銀九百ドルラル千ドルラル
 千五百ドルラル千八百ドルラル六七百ドル
 ラルハ令改テ金貨九百圓千圓千五百圓千八
 百圓六七百圓ト定ム

第百十九章 往返途中ノ旅費米國ハ金貨四百

五十圓歐洲各國ハ六百二十五圓ヲ渡スベシ
 第百二十章 留學生ノ為メ外國へ輸送ノ金貨
 ハ一切金圓ヲ以テ其數ヲ定ムト雖ヒ其金高
 ヲ其各國ノ為換會社ニ於テ各國ノ貨幣ニ換
 ヘ手形ヲ以テ送ルベシ而シテ其時ノ相場ヲ
 詳記シテ其各國領事館ニ達スルヲ法トス
 第百二十一章 官換留學生第百十四章ノ證書
 ヲ出スノ後三日ノ間ニ第七十七章ニ出ス所
 ノ支度料ヲ渡シ次ニ本國發航ノ日限前五日

ヨリ十日ノ間ニ旅費ヲ賜フ其時在留國領事
 館ニ出スベキ證書ヲ渡スベシ其書式左ニ示
 ス

第幾號 某國貸費留學生證書

何學 何府屬族苗字名弟

初等留學生 苗字名

學資一々年千圓 當何月何歲何月

留學年數滿五年 但苗字名ノ記法 留學證書ニ同シ

留學年數滿五年

年號月日某學校一於テ中學卒業免狀ヲ得
年號月日留學申付年號月日某港ヨリ某國
某船へ乗込シ某國へ差遣候ニ付費用如左
相渡ス

支度料トシテ金貨何百圓

旅費船賃トシテ金貨何百何拾圓

右之通當省ニ於テ本人へ相渡候條其地到
着之上學資給貸相成留學中并歸國入節等
都テ規則之通處分可有之候事

年號月日 文部卿 某

某國某所在留

領事官某殿

但料紙鳥ノ子紙ニツ折表面ニ記スベシ裏面ハ領事官
或ハ公使ニテ當人歸國ノ節記入ノ料トス

第一百二十二章 私費留學生ハ本國發航ノ日限

前十日ヨリ十五日マテノ間ニ豫備金三百圓

本省ニ納ムベシ右日限前五日ヨリ十日マ

テノ間其在留國領事館へ出スベキ證書ヲ渡

ス其書式左ニ示ス

第幾號
第幾番
某國私費留學生證書

某國

何府屬族苗字名子

學資一万年何百圓

苗字名

當何月何歲何月

留學年數何年

但苗字名ノ記法
留學免狀ニ同シ

年號月日某學校ニ於テ中學卒業免狀ヲ得
年號月日留學差許年號月日某港ヨリ某國

某船ニ乘込テ某國へ罷越候條留學中并歸
國ノ節等都テ規則之通處分可有之候也

年號月日

文部卿某押花

某國某所在留

領事官某殿

但料紙鳥ノ子紙云々前章ニ同シ

第百二十三章 公私留學ノ證書ハ每一名二枚
ヲ作り其號ヲ同クシ其番ヲ異ニシ一番ニ共
ニ之ヲ領事館ニ達スベシ生徒歸國ノ時其留

九
部
省

學中、始末及費用支給之金高等ヲ此證書
裏面ニ詳記シ其第一番、モ、ヲ以テ當人ニ
託シ歸朝、証トシテ文部省ニ達スルヲ法
トス其裏面ノ書式左ニ示ス

年號月日某國某所著何月何日領事館へ届
成ハ出頭

年號月日某所某學校ニ入某教師ニ隨

年號月日某學卒業成ハ進級成ハ卒業免狀
ヲ得

年號月日何々之故ヲ以何學校へ轉ス成ハ

退學

年號月日何々之故ヲ以歸國ヲ命ス

年號月日某所發途成ハ發航

洋銀何程 年號月日學資、内相渡
但洋銀相場何程、以下此ニ倣ハ

同 何程 年號月日何學修業、為、何、書器ヲ求ル費用

同 何程 年號月日何ノ事故ニ因テ貸渡ス

同 何程 年號月日歸國旅費トシテ相渡ス

合洋銀何千何百ドルラル

右之通相違無之候事

年號月日

某國某所在留

領事官某押花

文部卿某殿

第一百二十四章 官撰留學生學資并公私豫備金
輸送ノ證書式ヲ左ニ示ス

一ヶ年學資千圓

私費ノモノハ
此条ヲ及ク

豫備金三百圓

合金千三百圓

某國貨幣ニ直シテ何千何百ボンド或ハドルラ

此相場何拾何錢替

右ハ苗字名別紙證書之通留學 申付候ニ付
差許

前書之金貨相廻候也

年號月日

文部卿某押花

某國某所在留
領事官某殿

但料紙薄葉系紙オリエンタルバンク為替手紙添フ

文部省

第百二十五章 公私留學生其國、到着セハ直
チニ領事館ニ出テ文部省ノ證書ヲ達シ館中
名簿ニ苗字名ヲ自記シ且在留國大禁ノ概略
ヲ聞クベシ

第百二十六章 官換留學生其國ニ到着セハ領
事官其學科ニ付キ尤良善ナル教師ト學校ト
ヲ換ヒ之ニ入ラシムベシ私願留學生ト雖モ
官ニ依頼スルモノハ之ニ同シ
但官換生自ラ之ヲ換ヒ領事官ニ議シテ之

ヲ定ムルモ妨ナレ私願生ノ自ラ換フ者ト
雖モ必之ヲ領事官ニ議スルヲ法トス

第百二十七章 官換留學生ハ在留國著后一週
日ヨリ定則ノ學資ヲ領事館ヨリ受取ルベシ
但其期日十五日以前ニ係レハ全月分ヲ渡
シ十六日以後ニ係レハ半月分ヲ渡スベシ
返納スルモノモ之ニ倣ヘ

第百二十八章 公私留學生入學セル后十日ノ
間ニ領事官ヨリ文部省ニ報知ノ書ヲ發スベ

其書式左ノ如レ

何國官費留學生
本管屬族子弟

苗字名

年號月日某國某所著何月何日領事館へ届
或ハ出頭

年號月日ヨリ學資給貸

年號月日某所學校ニ入某免狀アル教師ニ

順ヒ某學科研業

右報知致シ候也

年號月日

某國某所在留

領事官某

押花

文部卿某殿

第百二十九章 公私留學生學資輸送ノ期日ハ

第八十四章ニ定ムル如クナレバ向後オリエ

ンタルバンクニ議シ毎年六月十一月兩度ニ

テ各國ニアシ、バンク久ヨリ其領事官ニ渡シ文
 部省ニテハ同時ニ我横濱ニアル、オリエンタ
 ルバンク、エ拂フ、約ヲナスヘシ
 第百三十一章 公私留學生歸途ノ旅費ハ期限前
 三ヶ月之ヲ送ルベシ若事故アツテ半途歸國
 ノ者ハ領事官預備金或ハ學資金ヲ以テ一時之
 融通ニ其旨趣文部省ニ達スベシ
 第百三十一章 公私留學生學資輸送ノ證書式
 左ニ示ス

某國貸費留學生學資輸送之記

一金貨五百圓

此英貨何ポンド何シリング
年號ハ半年分學資
以下之ニ準ス

屬族
苗字名

一金貨五百圓

但何拾何錢替百圓ニ付何拾何ドル以下之ニ準ス

屬族
苗字名

一金貨三百圓

此英貨何ポンド何シリング
年號何月ヨリ
何月迄何月ナ

屬族
苗字名

但前ニ同シ

合金何千何百圓

此英貨何千何百磅

某國為替會社出張横濱
何バニク手形別紙一枚

此相場何ポンドニ付何ドルラ

右之通差送候間渡方可被取計候也

年號月日

文部卿某

押花

某國某所在留

領事官某殿

但料紙薄葉紙

第百三十二章 第六十章生徒總代ハ公使領事

ノ指令ニ從ヒ生徒ノ事務ヲ擔任スルノ情ル

可ラス公使館或ハ領事館中生徒ノ事務ヲ專任

ヲ承順スル等ノ類

第百三十三章 第六十九章生徒學科進級ノ時

ハ生徒ヨリ本省ハ届クヘレト雖モ領事官モ

亦其時々之ヲ文部省ニ報知スベシ

第百三十四章 第七十七章都下ニアラサル留

學生學資ハ九百圓ニ定ムト雖モ其費用都下

ニ下ラサルモノハ領事官其事情ヲ審カニシ
テ千圓ヲ給スルヲアル可レ而シテ其趣旨ヲ
文部省ニ報知スベレ

第百三十五章 第八十二章居所轉換ヲ許スモ
ノ其許可ノ日ヨリ后十日ノ間ニ領事官ヨリ
文部省ニ報知スベレ

第百三十六章 第八十七章生徒ノ勤惰進退ノ
明細表アリト雖ヒ領事官ニ於テ毎三月各生
ノ教師ヨリ其行狀及ヒ勤怠等ノ報知書ヲ取

リ之ヲ文部省ニ送ルベシ
但其教師ノ報知曖昧ニシテ不十分ノ節ハ
領事官直ニ之ヲ進退スベシ

第百三十七章 初等留學生其學科ニ因テ格別
ニ費用アルモハ領事官其事情ヲ熟察シテ一
ケ年二百五十圓マテハ預備金ヨリ拂フベシ
而シテ其時々其所由ヲ詳記シテ文部省ニ報
知スベシ

第百三十八章 官撰留學生學資金領事館ヨリ

諸生徒へ配達スルハ第十二月翼年一月ヨリ

向フ三ヶ月分ヲ渡ス以下 第三月第六月第九月ノ四度ト定

此ニ倣フハヘシ

但時宜ニヨリ一ヶ月二ヶ月分或ハ一時ニ

五ヶ月六ヶ月分ヲ渡スコアルヘシ

第百三十九章 本省ヨリ輸送スル學資領事館

ニ達セハ其所ノ最正ナル會社へ預ケ其利子

ヲ領事館ノ留學生ニ係ル費用ニ充ツベレ而

シテ其利子ノ金高ト遣拂ノ目錄ト每半年文

部省ニ報知スベシ

但金ヲ預ケ利ヲ收ルハ必需ノ法ニ非ス故ニ損込

等ノ患ナキ最正確ナル會社ニ非ザレバ預クベカラズ

第百四十章 私費生徒ノ其學資金ヲ領事館ニ預ル者

モ前章ニ同シ而シテ其遣拂ハ其生徒ニモ示スベシ

但本省ヨリ到着直ニ其生徒ニ配達スルモノハ其金高

ノ四百分一則百圓ニ付ヲ以テ領事館ノ手數折トスベシ

第百四十一章 生徒領事館ヨリ學資ヲ受取リ

其他品物ヲ送り届ル時ハ必ス速ニ受取リ

證書ヲ納ムヘシ而シテ一切ノ證書其苗字名
ハ必ス自記タルヘシ

第四百十二章 十九歳以下ノ留學生アレハ領
事官他生徒ノ中ヨリ其後見人ヲ命ジ學
費ハ後見人ヘ渡スベシ

第四百十三章 官換留學生ハ官命ノ外年限中
半途歸朝ヲ許サス故ニ私願ヲ以テ半途歸
朝ヲ乞フモノハ旅費ヲ渡サス
但病氣ニテ歸朝ノ者ハ此例ニアラスト

雖モ其再航ヲ止ム

第四百十四章 官換留學生事故アリテ半途歸
朝スルモノ或ハ死スルモノ其學資ニ殘餘
アレハ之ヲ領事館ニ納ムヘシ領事官ハ之ヲ
預備金中ニ加ヘ其數ヲ文部省ニ報知スベシ

第四百十五章 官換留學生留學中病氣等ニ因
テ領事館ヨリ官金ヲ借ルモノハ毎年學資ノ
十分一ヲ以テ返納スヘシ入費多クシテ留學
中皆濟セサル者ハ歸朝ノ后返納スヘシ若

之病死スルモノハ其入費及死後埋葬ノ費用ハ官ノ扶助タルヘシ

但私費生病氣等ニ因テ一時官金ヲ借ルモノハ領事官ノ報知ヲ以テ文部省其證人ヨリ取立速カニ廻送スヘシ

第百四十六章 領事官ニ於テハ毎年一月七月兩度前半分ノ學資預備金一切ノ遣拂ヲ詳記シテ文部省ニ達スベシ本省記載ト勘合シ之ヲ公告スベシ

第百四十七章 官換留學生ノ病氣ニテ歸朝スルモノハ領事官醫師ノ症考ヲ審カニテ文部省ニ達スベシ

第百四十八章 公私留學生歸朝ノ節ハ直ニ文部省ニ出頭シテ領事官渡ス所ノ證書并留學ノ達書免狀外務省航海免狀ヲ返納シ別ニ留學中ノ始末開申書ヲ出スヘシ其書式左ノ如シ

某國何等留學生

本管屬族

苗字名

當何月何歲何日

年號月日本國何港發航

年號月日某國某所到著某地ヲ經テ某月日

某府人著某月日領事館へ出頭

年號月日某所某學校ニ入何免狀了ハ某教

師ニ隨ヒ年號月日ヨリ某月日迄何學研業

某月日何學卒業免狀ヲ得

年號月日何ノ故ヲ以轉學或ハ病氣ニ付某

月日迄退學

年號月日滿期或ハ何ノ事故ヲ以テ歸朝

之許可ヲ受何月日某所發途或ハ發航某月

日本國何港へ到着

何貨^{英貨}何程年號月日學資之内受取

同 同 右同斷

同 同 何學修業何器械代受取

同 司 歸國旅費トシテ受取

合何貨 何程

右之通相違無之候也

年號月日

苗字 名 押

但料紙美濃紙

第百四十九章 官換留學生ハ學業ノ試験ヲ受

ルカ為メ別ニ學術ニ係ル明細書ヲ出スヘシ

其業ヲ受ル所ノ教師ヨリ與ヘラレタル學科

卒業免状并ニ褒詞状等ノハ素ヨリ之

但私費之者ト雖モ試験ヲ乞フ者ハ此例ニ

準ス

某國留學生

本管屬族

苗字 名

當何月何歲何月

何國何所何學校ニ入教師誰ニ就何學科何

書ヲ用テ何々年間留學等ノ事ヲ詳記ス

正一收部省

年號月日

但料紙美濃紙

第百五十章 歸 朝ノ留學生ハ直ニ試験スハ

第百五十一章 試験ハ生徒學ノ所ノ科目ニ因

テ種々ノ問題ヲ設ク之ニ應答セシメ其學力

ヲ判シ等級ヲ證ス

但其優劣ニ隨ヒ一日乃至二日三日間ノ試

業ヲ為スヘシ

第百五十二章 試業ヲ受クルノ生徒ハ筆紙ヲ

携フルノ外辭書或ハ記臆書等ヲ以テ試業室

ニ入ルヲ許サス

第百五十三章 明治五年壬申八月學制ヲ定ム

ルノ日明治三年庚午十二月定ムル所ノ海外

留學規則ヲ改正シテ右學制中ニ掲出セルヲ

以テ従前ノ留學規則ハ廢セルモノナルヲ知

ル可シ

但從前ノ留學生ハ撰法試業ニヨラス給費
貧富ニヨラス規則亦其當ヲ得ス且各地方
ヨリ派出スルモ、ハ尤規律法則ナシ故ニ
今日ニ當テ一般必行ノ規則ヲ設ケ改正セ
サルヘカラス故ニ此改正ハ將來ノ目的而
已ナラス亦從前ニ及フモノトス
神官僧侶學校ノ事
第百五十四章 神官僧侶大中小學科免狀ヲ得
其神社寺院ニ於テ學校ノ開キ一般ノ生徒ヲ
教育スルヲアルトキハ都テ學制ニ準レ教則

ニ從ヒ學科ノ順序ヲ踏ムハレ而シテ其教旨
ヲ講説スルハ學科時間ノ外タルヘシ
但宗教ノ為ニノミ設ケタル學校ニ從事シ
尋常ノ小學教科ヲ授クル公私學校ニ出席
セサル童子ハ不就學ト見做スヘシ
第百五十五章 神官僧侶神社寺院ニ於テ變則
學校ヲ開クモ前條ノ例ニ準スヘシ
第百五十六章 神社寺院ヲ以テ學校ニ用ヒ或

ハ他ノ人仮リテ之ヲ私學ニ用ヒ神官僧侶ノ承諾ヲ得ル
ハ勿論而シテ其教師ハ神官僧侶又ハ他ノ人
タリトモ教旨ヲ講説スルハ前條ノ例ニ準ス
ヘシ

第百五十七章 神官僧侶學校ヲ開カント欲ス
ルモノハ第四十三章ノ通り地方官ヲ經テ願
出ツヘシ

第百五十八章 宗教ノ為ニノミ設ケタル學校
ニハ官ノ扶助金ヲ配當スハリラス

學科卒業證書ノ事

第百五十九章 第四十八章第四十九章大中小
學等ノ學科卒業試驗狀左ノ如シ
但公學私學共同

小學等級卒業ノ證書式雛形

大奉書紙四ツ切四折
ヲ用ノ以下同シ

學印

何縣屬^{華族}卒業僧侶平民
苗字名
當年何月何歲何月

下等小學第幾級卒業候事

第幾大學區何縣管内
第幾中學區何郡何所

第幾番小學

年號月日

學印ノ一ヲ示ス
第幾大學區
第幾中學區
第幾番小學

但レ村落小學等ヲレハ
何々小學ト書ス可レ

小學教科卒業ノ證書式雛形

學印

何縣屬^{華族}卒業僧侶平民
苗字名
當年何月何歲何月

小學教科卒業候事

第幾大學區何縣管内
第幾中學區何郡何所

第幾番小學

年號月日

中學等級卒業ノ證書式雛形

印學

何縣貫屬^華族卒業僧侶平民

苗字名

當年何月何歲何月

下等中學第幾級卒業候事

第幾大學區何縣管内何郡何所

第幾番中學

年號月日

中學教科卒業ノ證書式雛形

印學

何縣貫屬^華族卒業僧侶平民

苗字名

當年何月何歲何月

中學教科卒業候事

第幾大學區何縣管内何郡何所

第幾番中學

年號月日

大學一科卒業ノ證書式雛形

鳥ノ子紙四ツ切四折
ノ用ノ以下同

校印

何爾貫屬^士華族卒僧侶平民

苗字名

當年何月何歲何月

何科學卒業候事

學教師位氏名

同學學長位氏名

年號月日

○何科學トハ化學眼科等ノ類ナリ

○但教官ナレハ教師ノ二字ヲ削
リ官名ヲ以テ之ニ填ス教師外國
人ナレハ其國名ヲ書シ其下ニ教師
ノ名ヲ自記スヘシ又教員二三名ニ
テ其生徒ヲ教授スル時ハ連名スル
ノ有ルヘシ以下之ニ倣フ

大學全科卒業ノ證書式雛形

校印

何爾貫屬^士華族卒僧侶平民

苗字名

當年何月何歲何月

醫^法科卒業候事

學教師位氏名

同學學長位氏名

文部卿位氏名

年號月日

長部

師範學校卒業ノ證書式雛形

大奉書紙四ツ切
四ツ折ヲ用

校印

何縣貫屬^華上族卒僧侶平民

苗字名

當年何月何歲何月

中小學師範學科卒業候事

第幾大學區何縣管內何郡何所

師範學校

年號月日

貸費生規則

第百六十章 第五十四章ニ學資ヲ貸スベキ生

徒ノ檢査法及證書式ハ別冊アルヲ示シ既ニ

貸費生徒檢査法ノ一冊ヲ公布スト雖モ今少

シク訂正シテ此ニ追加ス因テ前ニ公布スル

檢査法ノ一冊ハ自今之ヲ廢ス則チ明治六年

三月十日ノ議定ナリ

第百六十一章 生徒學業勉強才敏ニ行正シク

將來成業ノ目的アルトモ其家貧窮ニシテ自

天二部

ラ衣食ヲ辨スルコト能ハサルモノハ其學業
ヲ檢査シ式ニ當ルモノハ學資ヲ給貸ス之ヲ
貸費生ト名ツク

第百六十二章 第五十五章費用ヲ給貸スル生
徒ハ大中小學ニ拘ヲサルヲ示スト雖モ從前
ノ生徒就學ノ年序多ク遲緩ナルヲ以テ當今
年齡十五歲以上二十五歲以下ニ限ル可シ而
シテ其年齡ト學業ノ進級トヲ比例シテ學業
年次ニ及ハサルモノハ之ヲ許サス

第百六十三章 大學即チ法學校醫學校理學校
文學校ノ生徒學資ヲ借ラン一ヲ乞フモノハ
中學教科卒業ノ證アツテ其學科成業ノ目的
アルモノハ之ヲ許ス

但當今醫學校ノ生徒ハ第八級ノ學科研業
スル以上ニ非サレハ之ヲ許サス

第百六十四章 中學ノ生徒學資ヲ借ラン一ヲ
乞フモノハ小學ヲ經テ上等中學第六級ノ學
科研業スル以上ニ非サレハ之ヲ許サス

文科部省

但中小學未タ完全ナラサルカ故ニ令暫ク
外國教師ニテ教授スル下等中學第一級以
上ノ學科ヲ以テ標準トシ諸學校ニ於テ其
學術右第一級ノ學科ニ相當スルモノハ貸費
ヲ乞フニ妨ケナシトス

第百六十五章 大中小學ニ拘ラス其修學ノ年
間ト進級ノ次第ト比較シテ學術非凡優等ナ
ルモノハ第百六十二章ノ年數ニ拘ラス格別
ノ檢査ヲ遂ケ貸費ヲ許ス

第百六十六章 假令ヒ現今貸費ヲ乞フノ學力
アリト雖モ修學ノ年間學級ノ進歩ニ比シテ
其年長キモノハ之ヲ許サス

第百六十七章 公私學校ニ於テ生徒學資ヲ借
ラシムルヲ欲スルモノハ其本人ヨリ願書ヲ出
ス可シ書式左ニ示ス

願書雛形

料紙美濃紙ニツ折三通ヲ出スヘシ内一通ハ其學校ニ留
メニ通ハ本省ニ出ス其内一通ハ指令ト共ニ下附ス

一年號何月日於何中小學或ハ何所何學

中學
科小

學科或ハ皇
漢洋學等 起業教師某誰ハ從學何學科
著述人名
用書名

一 何年間修業 事故アリテ轉學或ハ中絶ノ
一 年號何月日當學ハ入門

從前官費ヲ受クルモノ
ハ左ノ一條ヲ記ヘシ
一 何千何百圓 何年何月ヨリ何年何月迄於
何學一ヶ月金何圓ツ、拜借

或ハ官
費修業
私儀當時何學何級ニテ修業罷在候處從來
貧窮ニテ全ク自費ヲ以テ卒業難仕就テハ

當明治何年何月ヨリ向テ何年何月迄何學科
年間學資御給貸被 仰付度候尤在學中ハ勿
論成業、後ハ御規則之趣聊カ違背仕間敷
候仍テ從前學科卒業ノ證書相添奉願候間
何卒御許容被成下度此段奉懇願候也
年號月日

何府貫屬上華族卒僧侶平民
何郡何所或ハ何村住某 長男ニ重
或ハ弟
苗字 名 印

當何月何歲何月

學區取締成ハ戸長

苗字名印

第幾大學區或ハ華樂中學區

大中小學

御中

但當人ヨリ差出ス學科卒業ノ證書ハ其學校ニテ調査ノ上寫ヲ取り置キ本人ハ返却スルトス

第百六十八章 貸費ヲ願出ルモノハ於其學校

學力等試験ノ上左ノ雛形ノ通り添書レ地方官添書ヲ以テ其學區督學局ヘ願出テ同局ヨリ本省ヘ差出スヘシ第五十五章ヲ見ルヘシ

但大學校并ニ本省直轄ノ學校ハ直ニ文部省ヘ願出ツヘシ

願書雛形

料紙美濃紙ニツ折三通ヲ出スヘシ内一通其學校ニ留ス三通ハ本省ニ出ス其内一通ハ指令ト共ニ下附ス

何府貫屬士族卒僧侶平民

何郡何所或ハ何村住某長男或ハ弟

苗字名

當何月何歲何月

右學業勉強才敏行正既ニ何學第幾級ニ進歩
 將來成業ノ目的有之候處貧困ニシテ衣食
 自辨難相叶候ニ付即令ヨリ向フ何ク年間
 學資御貸渡被下度旨當人ヨリ願出候ニ付
 則チ從前學科卒業證書寫并現今研業教科
 明細書相添差出申候此段御詮議相成度候
 也學科卒業證書等未タ受ケサルモノハ出
 記ニ差出スハ故ニ從前修業ノ履歴等ヲ詳
 年號月日

第幾大學區何縣管内

或ハ何郡第幾中學區何所

大 中學教師 某押花

學長アルモノハ

同 學 長 某押花

但學長異見アルモノハ別封ヲ以テ進達スヘシ

或ハ 文部 卿 某 殿

大中小督學 某 殿

第一百六十九章

檢査ヲ經テ學資ヲ借ルモノハ

左ノ雛形ニ因テ證書ヲ本省ニ出スヘシ第五

章ヲ見ル

證書雛形

料紙美濃紙ニ折

何府貫屬華族卒僧侶平民

何郡何所或何町住某長男或弟

苗字名

當何月何歲何日

何學第幾級從前公費私費、區別ヲ記ス

私儀貧窮ニテ自費修業難相成令般學費御

貸付奉願候處學術御檢査ノ上向ノ幾年

間學資御貸渡シ被下置難有奉存候然ル上

ハ勉強修業可仕ハ勿論卒業ノ上御規則ニ

因テ右拜借ノ金高年割ヲ以テ償還仕候ト

モ又ハ年限ヲ以テ官役相受候トモ一切公

命ニ隨ヒ聊無二念相勤可申依テ證書差出

候也

年號月日

本人

某

印

右之通脚為致違背間敷依テ契印仕候也

信文部省

第七十章

貸費ヲ願フ者仮令幾年間ト定ム

或ハ
文部卿某殿
大中小督學某殿

父兄或ハ証人
本貫屬族

何學校教師

但教師ノ名ヲ書ムハ
多ク私學校ニアリ

某

印

某

印

ルト雖モ自費修業ノ道ヲ得バ速ニ之ヲ辭ス
ミレ

但既ニ借ル所ノ金額ハ規則ニ因テ償還ス

第七十一章 貸費ヲ乞フ者其撰ニ當リ既ニ

幾年間貸費ノ許可ヲ得ルト雖モ一期或ハ二期
期ヲ過テ學業試問ニ於テ等級進マサルモノ
ハ貸費ヲ止ム

但前ニ借ル所ノ金額ハ初メ給貸ヲ受ケシ月數ニ

文部卿

應シ貸費ヲ止ムル翼月ヨリ月賦ニシテ償還スヘシ

第一百七十二章 生徒貸費中學業不勉強或ハ學

則テ犯シ不行狀等ノレテリ退學スルモノハ

既ニ借ル所ノ金額ノ一時ニ償還セシメ其科

鳴シ府縣一般ニ布告スヘシ

但公罪ニカ、ルモノモ之ニ同レ

第一百七十三章 貸費生親族病氣等ニテ不得止

一時歸省下宿等ヲ願ノ者已ニ給與ノ衣服靴

傘類ノ外日用ノ給貸ヲ止メ再ヒ歸校スルハ

日ヨリ舊ニヨリ貸付スルヲ以テ法トスヘシ

但償還ノ法ハ歸省下宿等ノ為メニ貸付セ

ザル金數ヲ算シ貸スベキ金額ノ内ヨリ其

餘ル所ノ金數ヲ引キ全ク貸付スル金高ヲ

以テ規則ノ通り償還セシムヘシ 休業中歸
省下宿ス

ルモノモ
之ニ同シ

使役ノ法ハ歸省下宿等ノ為メ廢業スル日

數ヲ合算シ三ヶ月以上五ヶ月ニ及ブモノ

ハ使役半年ヲ減シ六ヶ月以上八ヶ月ニ及

下宿

ブモノハ使役一年ヲ減スベシ假令ヒ多ク
度ノ歸
省三ヶ月ヲ
限リトス

第百七十四章 諸學校ノ貸費生年限中退學相
成ラサルハ勿論諸官負等ニ登庸スルイテ得ス

第百七十五章 貸費生病氣事故等有テ不得止

退學スルモノハ既ニ借ル所ノ金額ハ初メ給
貸ヲ受ケレ月數ニ應ニ退學ノ翼月ヨリ月賦
ニレテ償還スヘシ

第百七十六章 貸費生其年限ヲ終リ使役ヲ受

ケス規則ニ依リ償還スル者ハ其金額本省ニ出スベシ
但各大學區督學局完全ナルトキハ其學區
督學局ニ出スモトス

○

第百七十七章 官立中學校ヲ設立スルコトヲ願

フ者ハ左ノ文例ヲ以テ地方官ヨリ其大學區
督學局ヘ伺出同局ニテ檢査ノ上聞届ケ之ヲ
本省ニ開申スヘシ但督學局未ク備ハラサル
區内ハ本省ヘ直ニ伺出ス

官立學校設立伺文例

一 學校位置

第幾大學區何府管下第幾中學區内何村

一 學校名稱

第幾番中學女兒小學或ハ村落小學等

一 學科

小學中學或ハ工業學商業學農業學或

ハ通辯學等

一 教則 別冊ニ認ハルモ妨ケナシトス

教科ノ等級并課業即チ何ケ月間何々

ツ、授ケル等ノ類畧ホ小

一 校則

入學退學等ノ手續并ニ入學ノ上生徒

ノ守ルベキ規則等

一 舍則 生徒ノ寄宿ナキモノハ記ニ及ハス

一 教員履歷 小学教員ハ男女共ニ之ヲ用フ

何府貫屬士華族卒僧侶平民

苗字名

當何月何歲何月

大中小學等級卒業、證或、師範學校
卒業免狀、有無

第幾大學區何府縣何所何學校 = 入、或

、何某、從、何年何月、何年何月

迄都合何、何年何學修業或、海外何國

何處留學何學修業等諸官省其他何處 =

於、何年何月、何年何月迄何官何役

勤務或、何業相勤等

一 教員給料

一、何年何程

但一人 = 付何程

一 生徒員數

何百何十人程

一 生徒受業料

一、何年何程

但一人 = 付何程

尋文音

部

一 學校費用

書籍器械等入費 一ヶ月何程

營繕入費并諸雜費 （筆墨紙薪）一ヶ月何程

雇人 世話掛番人 給料 一ヶ月何程

右費用總計 一ヶ月何程 出納見積何程

此内御委托金凡何程遣拂ノ積リ等云々

右之通設立仕度此段奉伺候也

年號月日

何府知事
縣令 某
參事 某

文部卿某殿

督学局アル地ハ大中
少督学ノ名宛

但利紙美濃紙

第一百七十八章 官立學校即チ公學ハ文部省額

金或ハ學校普及扶助ノ為メ府縣へ委托スル

金等ヲ以テ設立スルモノ尤官ノ扶助アルモ

ノハ私費半ハラ過クハ公學ト稱スベシ

第一百七十九章 第四十三章ニ揭示スル私學私

塾家塾等開業ヲ願フモノハ左ノ文例ヲ以テ

但利紙美濃紙

學區取締ヲ經テ其管轄廳へ差出シ之ヲ督學
局ニ伺出テ同局檢査ノ上聞届ケ之ヲ本省ニ
開申スルヲ法トス

但家塾ハ地方官ニテ之ヲ聞届クヘシ

私學開業願ノ文例

私塾位置

第幾大學區何府管下何郡何大區何ノ

小區何村何町或ハ何社又ハ何某居宅

何學舎ト唱フ

一 學校費用ノ概畧

何々

但私塾ハ之ヲ記セス

一 教員履歷 教員外國人ノレハ何國何某年齡學
科免狀有無雇入方詳細可記事

何縣貫屬華族卒僧侶平民

苗 字 名
當何月何歲何月

何某ハ從ヒ何年何月ヨリ何年何月迄
都合何々年何學研究

何某へ從ヒ何年何月ヨリ何年何月迄
都合何々年何學研究

何官省等何處ニテ何年何月ヨリ何年
何月迄何役勤務或ハ何業等相勤

一 教師給料

何々

但私塾ハ之ヲ記セヌ

一 學科

教則

一 塾則

右之通開業仕度此段奉願候也

年號月日

何縣貫屬^士族卒僧侶平民

或ハ結社人

苗字名 卯

苗字名 卯

何縣府廳宛

但料紙美濃紙

第一百八十章

公學私學私塾家塾開業許可ノ

印章及ヒ書式左ノ如シ

公學開業許可ノ書式

伺之通

開學許可
文部省

但督學局アル所ハ
同局ノ印章ヲ用フ

私學私塾開業免許ノ書式

開學許可
文部省

但督學局アル所ハ
同局ノ印章ヲ用フ

私學私塾開業御差許相成候事

府縣
廳印

但コノ書式ハ開業願書ノ印章ヲ押シ
下ル上ニテ地方官ニ於テ書記ニ相渡ス

家塾開業免許ノ書式

地方官ニ於テ許スモノトス

家塾開業聞届候事

府縣
廳印

○ 第百八十一章 地方官ニ於テ其管内ニアル公學私學及ヒ私塾ノ數并ニ教員ノ數ヲ表トシ毎年三月中之ヲ督學局ニ出スヘシ
但其表ハ第六號式ノ如クスベシ

○ 第百八十二章 學位ノ稱號ヲ分テ三等トス博士、學士、得業士、是ナリ
第百八十三章 中學教科卒業大學ハ入りハ大學

學校醫學校理學 修業凡ソ一ケ年ノ後及第ル者ニ得業士ノ稱號ヲ與フ

第百八十四章 大學ニ進ムノ後一二學科一學科ト性ハ化學解剖學法等ノ類或ハ四五學科ヲ修ムル者ニハ得業士或ハ學士ノ稱號ヲ與フ

第百八十五章 大學科大學科トハ法科醫科ト理科文科理科文科ヲ云フヲ卒ルモノニハ學士ノ稱號ヲ與フ

第百八十六章 博士ノ稱號ニ至テハ大學科成業ノモノ追々實地研究ニ熟達

但此學校ハ師範學校同様ノモノニシテ其
學術ヲ得シモノハ後來我邦語ヲ以テ我邦
人ニ教授スル目的ノモノトス

第百九十一章 專門學校ニ入ル生徒ハ小學教
科卒業シ外國語學校下等ノ教科ヲ踏ミタル
モノニシテ年齡十六歲以上タルヘシ
第百九十二章 專門學校ニ入ルノ生徒ハ其學

校教科ノ外餘カヲ以テ中學教科ヲ國書ニテ
研究スベシ

第百九十三章 專門學校ヲ分ツ左ノ如シ法學
校醫學校理學校諸藝學校礦山學校工業學校
農業學校商業學校獸醫學校等コレナリ

第百九十四章 專門學校ニ入ルモ

ノハ彼ノ言語相通ビザレハ其學術ヲ得ル能
ハス故ニ外國語學ヲ學ハサルヲ得スコレ外
國語學校ヲ設クル所以ナリ

第百九十五章 外國語學校ハ外國語學ニ達ス
ルヲ目的トスルモノニシテ專門學校ニ入ル
モノ或ハ通辯等ヲ學ハント欲スルモノ此校
ニ入り研業スヘシ
但此校ニ入ルモノハ小學教科ヲ卒業シタ

ルモノニシテ年齢十四歳以上タルヘシ

第百九十六章 通辯ノミヲ學フモノハ此語學
校ニ在テ上下二等ノ教科ヲ卒業スルトス
但二三ヶ國ノ語學ヲ脩業スルトアルヘシ
譬ヘハ最初英語ヲ學フモノハ先ツ其語學
ヲ終リ次ニ佛語ニ轉シ下等ヨリ學フ事ト

第百九十七章 各科ノ專門學校ニ入ルモノト
雖モ年齢若キモノハ二三ヶ國ノ語學ヲ學ブ
妨ケナシトス

但修業ノ順序等前章ニ同シ

○外國語學校

第百九十八章 外國語學校教科修業年限四年

間トス其等級左ノ如シ外國語學校教

下等第四級一級以テ六ヶ月ノ課程

一 綴字

二 習字

三 讀方

四 暗誦

五 算術

六 體操

下等第三級

一 習字

二 讀方

一	九	八	七	六	五	四	三
讀方	體操	作文	文法	書取	會話	算術	暗誦
	下等第一級						

文部省

二	一	三	八	七	六	五	四	三
讀方	習字	下等第二級	體操	文法	書取	會話	算術	暗誦

音

十	九	八	七	六	五	四	三	二
體操	歷史	地理	作文	文法	書取	會話	算術	暗誦

八	七	六	五	四	三	二	一	上
地理學	作文	文法	書取	會話	算術	暗誦	讀方	等四級

學
文
部
省

音

九 歷史
十 體操

上等第三級

一 讀方

二 暗誦

三 算術

四 會話

五 書取

六 文法

七 作文
八 歷史
九 體操

上等第二級

一 讀方

二 暗誦

三 算術

四 會話

五 書取

第一級

第二級

四	三	二	一	九	八	七	六
會話	算術	暗誦	讀方	上等第一級	體操	善論	作文
						文法	

五	六	七	八	九	十
書取	文法	作文	善論	畫學	體操

○獸醫學校

第百九十九章 獸醫學校教科ヲ分テ豫科本科トシ
 豫科修業三年間本科修業二年間トス 獸醫學
 校教則

三
 文
 部
 省

別冊

獸醫學豫科

一 語學

二 算術

三 代數學 大意

四 幾何學 大意

五 博物學

但博物學トハ動物學植物學金石學地質學等ノ汎稱ナリ

六 醫科物理學

七 醫科化學

八 植物學 藥草ノ部

九 及譯 洋文ヲ和文ニ譯ス以下之ニ同シ

十 體操

但豫科年限中修業時間ノ外地理歴史經濟修身國體等國書ニ就テ學フヘ

獸醫學本科

一 動物學

二 生理學

三 解剖學

四 內科

五 外科

六 獸醫術

七 實地經驗

但及譯體操等ヲ附ス

○商業學校

第二百章

商業學校教科ヲ分テ豫科本科ト

シ豫科修業三年間本科修業二年間トス
商業學校

教則別冊アリ

商業學豫科

一 語學

二 算術

三 通商地理

四 博物學大意

五 物理學大意

六

數學

商業必用ノ部

但數學トハ算術代數學幾何學三角法
微分積分等ノ總名ナリ

七

記簿法

八

通商書信

九

反譯

十

體操

但豫科年限中修業時間ノ外歴史經濟
修身國體等國書ニ就テ學フヘシ

商業學本科

一

記簿法

二

算計法

三

商用物品辨識

其原由
其種類
其試法

其使用
其價值

其性質
其價值

四

商業學

五

商法

但反譯體操等ヲ附ス

○農業學校

第二百一章

農業學校教科ヲ分テ豫科本科

農業學校教科ヲ分テ豫科本科

豫科修業三年間本科修業二年間
教則別
農業學校

農業學豫科

- 一 語學
- 二 算術
- 三 代數學
- 四 幾何學
- 五 地理學
- 六 畫學圖画

- 七 物理學窮理學
- 八 博物學
- 九 及譯
- 十 體操

但豫科年限中修業時間、外歷史修業
 國體等國書ニ就テ學フヘシ

- 農業學本科
- 一 農用化學
- 二 植物學

三 獸醫學 農家必用ノ部

四 耕藝 圃庭及樹木

五 農學

六 農家經濟學

七 實地農業

但反譯體操等ヲ附ス

○工業學校

第二章 工業學校教科ヲ分テ豫科本科ト

豫科修業三年間本科修業三年間トス 學校業

教則別冊

工業學豫科

一 語學

二 算術

三 代數學

四 幾何學

五 三角法

六 博物學 大意

七 物理學

支那省

八 畫學

工業初步 諸器具ノ使用等

十 反譯

十一 體操

但豫科年限中修業時間、外地地理歴史
經濟脩身國體等國書ニ就テ學フハシ

工業學本科

數學

畫法幾何

三 畫學

圖画 寫画

四 百工化學

五 工學實用

機械製作 物品製造

六 實地工業

但反譯體操等ヲ附シ其他工作場製煉
場等ヲ設ク

○ 鑛山學校

第二百三章

鑛山學校教科ヲ分テ豫科本科ト

シ預科修業三年間本科修業三年間トス
鑛山學校

册 叙 則 別

鑛山學豫科

一 語學

二 算術

三 代數學

四 幾何學

五 地理學

六 博物學

七 畫學

八 物理學

九 化學

十 及譯

十一 體操

但豫科年限中修業時間，外歷史經濟
脩身國體等國書，就之學，
鑛山學本科

鑛山學本科

一 幾何學

二 畫法幾何

- 三 畫學 圖画
- 四 測量學
- 五 物理學 機械及礦山機具ノ部、主トス
- 六 化學 鐵類分析ノ部、主トス
- 七 器械學
- 八 金石學
- 九 地質學
- 十 金屬學
- 十一 藥造學

- 十二 掘鑛學
- 十三 鑛山律
- 十四 實地經驗

但反譯體操等ヲ附ス

○諸藝學校

第二百四章 諸藝學校教科ヲ分テ豫科本科ト

シ豫科修業三年間本科修業四年間トス
諸藝學校教科別冊

諸藝學豫科

- 一 語學
- 二 算術
- 三 代數學
- 四 幾何學
- 五 三角法
- 六 地理學
- 七 記簿法
- 八 畫學 圖畫
- 九 博物學

- 十 物理學
- 十一 化學
- 十二 互譯
- 十三 體操

但豫科年限中修業時間，外地理歷史
經濟修身國體等國書二就于學ノハニ

諸藝學本科

- 代數學 高等
- 幾何學 高等

- 三角法
- 微分積分
- 畫學 圖西 算西
- 畫法幾何學
- 築造學
- 測量學
- 物理學
- 化學
- 金石學

- 地質學
- 金屬學
- 百工化學
- 重學
- 動重學
- 器械學
- 星學
- 製造學
- 機械製作

廿一 蒸氣機械學

廿二 掘鑛學

廿三 工學 道路橋梁鏡道等

廿四 工作律

廿五 實地經驗

重但反譯體操等ヲ附シ其他實地脩業ノ

十四 為以工作場製煉場等ノ設ク

十 理學校

第二百五章 理學校教科ヲ分テ豫科本科トシ

豫科修業三年間本科修業四年間トス 理學校 教科別

冊

理學豫科 平野中村等編

一 語學

二 算術

三 代數學

四 幾何學

五 畫學 岡西

六 博物學

七 物理學
 八 化學
 九 反譯
 十 體操

但羅甸學希臘學等ヲ加ヘ教フベシ
 豫科年限中修業時間ノ外地理歷史經
 濟脩身國體等國書ニ就テ學フヘシ
 新理學本科

一 物理學
 二 化學
 三 代數學 高等
 四 幾何學 高等
 五 微分
 六 積分
 七 重學
 八 星學
 九 動物學

陸軍部

- 十 植物學
 - 十一 ~~金石學~~
 - 十二 地質學
 - 十三 生理學總論
 - 十四 各種比較解剖學
 - 十五 各種比較生理學
- 但反譯體操等ヲ附ス又博物院製煉場
器械場等ヲ置ク

○醫學校

第二百六章 醫學校教科ヲ分テ豫科本科トシ
 豫科修業三年間本科修業四年間トス 醫學校
 冊下 教則別

醫學豫科

- 一 語學
- 二 羅甸學
- 三 算術
- 四 ~~代數學~~
- 五 幾何學

六 地理學

七 ~~博物學~~

八 物理學

九 化學

十 反譯

十一 體操

但豫科年限中修業時間，外歷史經濟

修身國體等國書，就大學，入

醫學本科

一 解剖學

二 生理學

三 醫科物理學

四 醫科化學

五 醫科博物學

六 病理及治療總論

七 內科

八 ~~外科~~

九 病體解剖

- 十 組織學
- 十一 ~~綱帶學~~
- 十二 製藥學
- 十三 藥物學
- 十四 眼科
- 十五 產科
- 十六 婦人科
- 十七 臨床內科
- 十八 臨床外科

- 十九 臨床產科
- 二十 醫律
- 廿一 實地經驗

但及譯體操等ヲ附ス其他學術試驗
 為メ醫院解剖場製藥場等ヲ置ク

○法學校

第二百七章 法學校教科ヲ分テ豫科本科トシ
 豫科修業三年間本科修業三年間トス
法學校
 教則別

冊
ア

法學豫科

一 語學

二 羅甸學

三 地理學

四 歷史

五 法科總論

六 經濟學

七 國勢學

八 及譯

九 體操

但豫科年限中修業時間ノ外數學物理
學博收脩身國體等國書ニ就テ學フ

法學本科

一 經濟學

二 國勢學

三 萬國公法

- 四 憲法
- 五 ~~民法~~
- 六 訴訟法
- 七 商法
- 八 治罪法
- 九 刑法
- 十 公正法
- 十一 山澤禁
- 十二 性法

又但反譯體操等ヲ附ス

第二百八章 外國語學校ヲ經テ專門學校ニ入

ルノ生徒一ケ年ノ後其學業ヲ試驗シテ貧困ナル者ハ學費ヲ給貸スルヲアルヘシ

第二百九章 專門學校ニ於テソノ學科卒業

スル者ハ大學科卒業ノモノト同シク學士ノ

稱號ヲ與フルモノトス

第二百十章

學事ニ付貨幣又ハ書器ヲ獻納

シ及寄附スル者有之時ハ地方官ニ於テ聞届

ケ第九十八章但書之通適宜處分致シ其遣拂

ハ第一百七章之通毎年三月中督學局ニ届出ヘシ

但學資等獻納及寄附スル者ノ姓名金高等

ハ第七號式ノ如ク表ヲ製シ遣拂ノ表ト共

ニ督學局ニ出スヘシ

○

第二百十一章

小學ニ入ルノ男女ハ種痘或ハ

天然痘ヲ為シタルモノニ非レハ之ヲ許サス

第百二十二章 外國語學校ニ入り通辯ノミヲ
學ブモノハ上下二等ノ教科ヲ經テ一國語ヲ
卒業シ便ニ他ノ語學ヲ學ブトキハ貧困ナル
モノハ其學業ヲ試驗シテ學費ヲ給貸スル
アルヘシ
但專門學校ニ入ルヘキモノト雖モ年齡ニ
ヨリ上下二等ノ一國語ヲ卒業シ更ニ他ノ
語學ヲ學ブトキハ本文ニ準ス

第百二十二章 外國語學校ニ入り通辯ノミヲ
學ブモノハ上下二等ノ教科ヲ經テ一國語ヲ
卒業シ便ニ他ノ語學ヲ學ブトキハ貧困ナル
モノハ其學業ヲ試驗シテ學費ヲ給貸スル
アルヘシ
但專門學校ニ入ルヘキモノト雖モ年齡ニ
ヨリ上下二等ノ一國語ヲ卒業シ更ニ他ノ
語學ヲ學ブトキハ本文ニ準ス

第二百十三章 貸費生疾病ノ節 貸費金贏餘ノ内
 費ハ一切自辨タルベシ右ハ給貸金贏餘ノ内
 ヲ以テ上納スルヲ法トス
 但給貸贏餘金ヲ以テ不足スルキハ一時官
 金ヲ以テ支消シ本人成業又ハ半途退學ノ節
 右金額ヲ加算シテ償還或ハ使役スベシ
 第二百十二章 借費生疾病ノ節 借費金贏餘ノ内
 費ハ一切自辨タルベシ右ハ借費金贏餘ノ内
 ヲ以テ上納スルヲ法トス
 但借費贏餘金ヲ以テ不足スルキハ一時官
 金ヲ以テ支消シ本人成業又ハ半途退學ノ節
 右金額ヲ加算シテ償還或ハ使役スベシ

○學制第二百十章 第七號表式
 但用紙 羨濃紙ノ事

獻納及寄附金等一覽表 第幾大學區 某府縣

品目	願意	國郡市村屬族	姓名
金何千圓	何々ノ譯ニテ何ノ金ヲ以テ何ノ廉江献ス		
金何十圓	何々ノ譯ニテ何ノ金ヲ以テ何ノ廉江献ス 或ハ向何々年又ハ永世献ス		
田地何反分	何々ノ廉江寄附		
何書器	何學校江献納		
總計	金何千何百圓 書籍何卷	器械幾組 地所何反	何人

